

JENESYS2017 招へいプログラム第6陣の記録 (対象国:インド第1陣, テーマ:(技術) 科学技術交流)

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2017」の一環として、インドより大学生24名が2017年10月24日～10月31日の日程で来日し、「技術, 科学技術交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、「科学技術交流」のテーマの下、日本理解講義および企業訪問を通し、日本の高い技術力を学び、島根県では、地域でのIT産業振興策講義聴講、IT企業の現場視察に加え、抹茶体験やたたらと刀剣館視察など、伝統文化や最先端技術視察まで幅広い分野において日本について学ぶことができました。

また、日本人との交流を通して日本についての理解を深め、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて対外発信を行いました。帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン(活動計画)についてグループ毎に発表しました。

【参加国・人数】

インド 24名

【訪問地】

東京都, 神奈川県, 島根県

2. 日程

- 10月24日(火) 羽田/成田国際空港より入国
- 10月25日(水) 【オリエンテーション】
【日本理解講義／基調講演】
【地域産業・企業視察】株式会社アマダ・ホールディングス(金属加工機械メーカー)
- 10月26日(木) 島根県へ移動(飛行機)
【地域概要講義】まつえ産業支援センター
【地域産業・企業視察】株式会社モンスター・ラボ(IT企業)
【歴史的建造物視察】松江城
【地方自治体表敬訪問】松江市長
- 10月27日(金) 【学校交流】島根大学
【日本文化体験】抹茶体験
【歴史的建造物視察】出雲大社
- 10月28日(土) 【日本文化体験】奥出雲たたらと刀剣館
【ホームステイ対面式】【ホームステイ】

- 10月29日(日) 【スポーツ交流】ホッケー体験
 【ホームステイ歓送会】
 【ワークショップ】
- 10月30日(月) 東京都へ移動(飛行機)
 【報告会】
 【最先端技術視察】日本科学未来館
 【商業施設訪問】お台場
- 10月31日(火) 【歴史的建造物視察】浅草寺
 成田国際空港より出国

3. プログラム記録写真

| | |
|---|--|
|  |  |
| <p>10/25 【日本理解講義／基調講演】</p> | <p>10/25 【地域産業・企業視察】株式会社アマダ・ホールディングス</p> |
|  |  |
| <p>10/26 【歴史的建造物視察】松江城</p> | <p>10/26 【地方自治体表敬訪問】松江市長</p> |

| | |
|--|---|
|  |  |
| <p>10/27【学校交流】島根大学</p> | <p>10/27【歴史的建造物視察】出雲大社</p> |
|  |  |
| <p>10/29【スポーツ交流】ホッケー体験</p> | <p>10/30【報告会】</p> |

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ インド 大学生

日本人は愛すべき人々で、おもてなしの心に溢れ、何よりも他人に対して常に気を使っている人たちでした。学校交流では、学生達が会話が弾むように気を使ってくれたのでとても楽しい時間となりました。地方自治体の職員は地に足がついている感じで、感じが良く、私たちの疑問や質問にきちんと答えてくれました。ホームステイを通して日本の生活スタイルをしっかりと学ぶことができました。食事、作法、服装、そして言葉などを学べる楽しい時間でした。松江城、モンスター・ラボ、奥出雲たたらと刀剣館などの訪問は私たちの日本文化や伝統、建築に関する理解と知識を深めてくれました。今回のプログラムはもっと日本を知りたい、もっと日本人と交流したいという私の思いをますます強くしてくれました。

◆ インド 大学生

日本の製造業についての講義は大変印象深いものでした。5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）や KAIZEN（改善）についてとても良く理解できました。学校交流では日本の教育現場にはインドの学生達にとって多くのチャンスがあることがわかりました。企業訪問や地方自治体訪問では職員たちの誠実さ、時間に厳しいところ、そして仕事に対する忠誠心を学ぶことができました。また、ホームステイをすることによって日本人がとても謙虚で親切な人々であることがわかりました。日本人たちはとても時間に厳しく、いつも時間を守っているところがとても好きです。

◆ インド 大学生

基調講義では多くの情報と知識を限られた時間内に得ることができました。島根大学訪問では素晴らしい施設と勉学に最適な環境に強い印象を受けました。大学での説明で、海外の学生も奨学金を得て日本で勉強するチャンスがあることがわかり、大変有意義な時間となりました。アマダ・ホールディングスやモンスター・ラボ訪問では製造業においてコストや時間を最大限に削減するため、今日世界で使われている先端技術・科学技術開発の全体像を理解することができました。ホームステイは滞在中で最も心躍る経験でした。新しい日本語の単語を覚え、日本人の他人に対する心遣いや共助の精神を理解することができました。ホストファミリーが用意してくれた日本食も楽しむことができました。

5. 受入れ側の感想

◆ 受け入れ先企業

会社説明や機械紹介では、とても熱心に説明を聞いて頂けて非常に嬉しく思いました。ベンディングマシン（板金を曲げる機械）の説明のあと、完成したサンプルを見て拍手が沸き起こったことが印象的でした。国内の方々からはあまり頂けない反応なので、とても新鮮に感じ、社員のモチベーションも上がりました。

◆ ホストファミリー

学生がインド料理を作ってくれ、とても嬉しかったです。美味しく、話も盛り上がりました。何でも経験してみたいという積極性があり、こちらも色々提案しがいがありました。笛や写真を用意してくれていてこちらがもてなしてもらいました。温泉にも挑戦されたので驚きました。気持ちよかったと言っていました。

6. 参加者の対外発信

| | |
|---|--|
|  |  |
| プログラムについての発信（Facebook） JENESYS のようなプログラムは、インドと日本の絆を強くします。 | 松江城についての発信（Instagram） 日本に現存する 12 天守のひとつである築 400 年の松江城を見学しました。 |

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

1. We will upload photos, videos and articles on WhatsApp, Facebook, YouTube, Instagram and LinkedIn.
2. We will publish an article in Institute Magazines of PDPM IIITDM Jabalpur and IIT Hyderabad about our experience in Japan and opportunities available here.
3. We will organize an interactive session in IIITDM Jabalpur for the students to let them know about the
 - Study, research and job opportunities available in Japan.
 - Culture and tradition of Japan

アクション・プランの発表

1. 写真, ビデオ, 記事などを WhatsApp, Facebook, YouTube, Instagram, LinkedIn などの SNS に投稿する。
2. ジャバルプール情報工科大学とハイデラバード工科大学の各大学の雑誌に, 日本での経験と日本における様々な可能性についてインド人学生に知らせる記事を掲載する。
3. ジャバルプールインド情報工科大学で学生との交流会を開催し, 学生に①就職, 研究, 大学留学などのチャンスについて, ②日本の文化・伝統について教える。
4. ハイデラバード工科大学では印日クラスで日本での経験を伝える。
5. 両大学の公式なウェブサイトでは JENESYS2017 について説明する。
6. JENESYS2017 というアカウントでフェイスブックを立ち上げたので, それを使って多くの人に日本についての情報を発信する。これは定期的に投稿していきたい。